

## 政治学概論 II 2024 w13 (2月7日2限) リーディングアサインメント：

建林・曾我・待鳥「中央地方関係制度の3つの側面」(『比較政治制度論』)

氏名	Q1	Q2
赤星	p.300～の中央・地方関係制度の三つの側面について説明されている部分	理由は、三つの側面として提示されている「集中一分散、融合一分離、集権一分権」というものが一見同じように見えて、中央政府と地方政府の権限配分や機能面の協働度によって規定されているかなり違うものであるというのが面白いと思い、その中でも特に、「融合一分離」という側面が、機能面の協働度や重複度に関する基準が設けられているというのを新しく知って面白いと思ったから。
岩田	「地方政府の自律性は地方選挙の有無ばかりでなく、中央政府と地方政府それぞれの政治態度、とくに政党システムや政党組織のあり方などの影響も受ける」(p.301)	地方政府の自律性には中央政府との関係性や政党システムが重要であるという点が重要であると考えるから。中央政府の勢力が強いと地方政府の自律性は制限されるため、政策決定や財政などの権利を地方政府がどの程度持っているのかによって影響を受けることから、選挙のような表面的なものだけでなく、内面的な仕組みが重要であると感じた。
遠藤	制度改革の局面では、「大陸型」「英米型」から逸脱する組み合わせが発生することになるところが重要であると思った。	私は中央政府と地方政府と聞くと融合と分権の側面をはじめに考えるが、地方分権化へ向けた制度改革と行うときには、そのような分散・融合・集権の「大陸型」や集中・分離・分散の「英米型」を越えた位置づけから考えていくことが重要であると分かったから。
大石	P306.307 地方議会の関心について	地方議会は民主化ととても関係性が深いものであり、地方議会は市民との距離が近いことから積極的な政治参加をもたらすと書かれてあったが、私の地元では地方議会よりも国会の方が大きく報道されており、地域・国によって地方議会との距離感が異なることの認識が重要だと思った。また他国は地方議会にどれほど関心があるのか疑問に思った。
大久保	「大陸型」と「英米型」(p.302)	集中一分散/融合一分離/集権一分権という三つの側面が中央・地方関係を規定するルールとして存在し、分散・融合・集権あるいは集中・分離・分権という二つのパターンに整理されてきた。また二つのパターンのうち、前者はフランスに典型的な「大陸型」で後者はイギリスに典型的な「英米型」と呼ばれるが、それぞれにメリット・デメリットがあり、それぞれで何をなしえたいのかによって、形を変えていく必要があると感じた。
片山	地方分権改革が進んでおり、中央・地方関係における三つの側面が生じているページ 306	確かに、地方政府の方が住民にとっては身近な存在だと思う。しかし、個人的には、地方分権を進めるということは、中央の責任放棄な気がする。なぜなら、分離分散が強化されるということは、財源も自分たちでどうにかする必要があるし、地方政府がやること多すぎてパンクする可能性も出てくる。結果として、困るのは住民なのに、地方政府を困窮させるようなことをするのは、中央の責任放棄と嫌がられせな気がする。なので、国民はこのことを考える必要があると感じたので、重要な箇所とした

(continued)

氏名	Q1	Q2
加藤	4 ページの「大陸型」と「英米型」の箇所	「大陸型」と「英米型」の政治制度や法制度を関連付けて理解することが、比較政治学の分野で重要だと思ったからである。両モデルは、それぞれ異なる歴史的背景と価値観に基づいて発展してきた。ゆえに、法的な原則や運営方法も異なっている。グローバル化が進むなかで、異なる制度を理解し、統合的に考えることで法体系が交錯する場面において両者の利点や欠点を踏まえて動くことができると考えるからである。また、現代社会におけるガバナンスの課題や必要な改革についても、これら二つのモデルを比較することで具体的な改革案を見いだす手助けになると考えられる。以上のようなことから、大陸型と英米型の政治制度や法制度の比較を通じて、国際的な法的問題や政治的問題の解決策を見つけたり、自国の制度改革に役立てたりすることが比較政治学の分野において重要になる視点だと考えられる。
喜多川	地方分権改革が何をもたらすか	地方分権改革によって何が起ころのか興味があった。文章中では、民主化の促進が言われており、その理由としては地方政府の法が住民との距離が接近しているため、住民は地方政府への関心を高めて、積極的な政治参加をもたらすとされていた。これに納得できたが、政治参加の多様な形態の違いを踏まえることなしに、そのような分権化が民主主義にとって望ましいと一般的な形で言うことは難しいと言われており、気になったから。
黒田	民主化の促進 p306	本リーディングアサインメントでは、政府と国民の距離が近いと、国民はより「積極的な政治参加」をするようになるとあり、この言葉に本当に納得した。なぜ納得したかというと、松江市の上定市長は、島根スサノオマジックが大好きで1ファンとして、よく観戦しておられるが、その結果、観戦しておられる市民の方も市長を身近に感じ、市長の政策によく注目しているため、国民と政府の距離が近いことは大切だと感じたから。
小松原（健）	地方の選挙が国政選挙よりも低い国がほとんどである。p.6	アメリカなどは、選挙に対して積極的であるとよく聞かすが、アメリカも地方の選挙のほうが投票率が低いのだろうか。もし低いのであれば距離が近いと、住民の地方政府への関心を高め、積極的な政治参加をもたらすという理論は崩壊しているのではないかと感じる。また、日本の都会では、「地域」という意識が低く、身近に感じるものが少ないのではないかと考えた。
田辺	融合・分離型の国 (305 頁)	融合・分離型の国は「地方政府が中央政府からの財政移転に支えられながら、大規模な歳出を行う」と説明されていたが、一方で中央政府による地方任せも起こっているのではないかと考えた。ナイジェリアでは、世界最大規模の水スラムが発生しており、政府が存在しないものとして考えていることを踏まえると、中央政府の責任が果たされているか疑問に思った。中央政府と地方政府が重複して責任を持つということ（融合）と中央政府と地方政府の役割を区別するということは、具体的な状況を想定できていないからかもしれないが、若干の矛盾があるように思った。

(continued)

氏名	Q1	Q2
為石（智）	中央と地方の関係 (pp.307)	グローバル化が進み、インターネットが発達した現在だからこそ、中央政府への関心の方が高まっているのではないかと考える。全国民が国政について簡単に把握することができることや、国際関係が重要視されており、日本を代表する国政に関心が高まっていると考えられるからである。このことから、国民の政治への関心を高めることと身近な地方政府の方が関心を寄せやすいということの関連は過去のものであると考えられる。
丹後	中央－地方の三つの側面 300～302	中央政府と地方政府の関係について、中央集権や地方分権のような言葉は、これまで何度か聞いたことがあったが、これらそれぞれの三つの側面については知らなかったので興味深かったから。集中－分散や融合－分離、集権－分権の三つである。これらが中央と地方の関係性を見ていく上での重要な土台となる考え方であるなど感じた。
西田	「首長選挙や議会選挙を～民主的な政治文化を涵養するというのである」（307 頁）	ここでは、首長選挙や議会選挙を通じて住民が地方政府に参加するという制度が、民主的な政治文化を育てることについて書かれている。つまり、地方分権の政治が民主主義を促進するということだ。しかし、日本では地方分権改革が進行しているにもかかわらず、近年の人々の個人主義化によって地域との関わりの希薄になり、政治参加が進んでいないと考える。このため、地方分権化を進めるよりも、まずは地域内での人々の関わりの構築や住民の政治参加を促すような取り組みをするべきだと考える。
野田	中央・地方関係制度を特徴づける 3 つの側面で重要視されるのは、狭義の分権であること。(307 ページ)	日本において分権が進められることは、とても重要なことである。政府ではなく、地方が政治を中心的に行っていくことで、よりその地域に特化した政策を行うことができるし、民主的な意識を涵養することにもつながっていく。逆に、地方分権が進んだことによって新たな課題が生まれるとも考えられるので、精査する必要があるだろう。
原田	集中－分散、融合－分離集権 一分権の程度について p304-306	現実には「集中・融合・集権」と、「分散・分離・分権」という組み合わせが成立しやすいという部分が重要であると感じたから。また、融合が分散を、分離が集中をもたらすという関係は見られず、むしろ逆の関係が成立してしているという部分や単一国家である日本においては分散・分離的な性格を持っているという点が面白いと感じたから。
藤井	中央政府と地方政府の役割が厳密に区別されている場合（分離）は、地方政府の意思決定も自律的に行いやすい（分権）。(P.302)	中央政府から見た地方の実状と地方政府から見た地方の実状には、その細かさに違いがあると考え、地方政府から見た地方の実状はより住民の暮らしがリアルに表れるものだと予想できる。しばしば、中央政府がだす地方への様々な問題の解決策は、地方の実状を分かっていないなどと批判されることも多い。ならば、地方のことは地方が行い、行うためのルールを定める中央政府という関係が理想なのではないかと考えた。

(continued)

氏名	Q1	Q2
藤田	投票率については地方選挙より国政選挙の方が高く、政策形成の過程における意見表明や異議申し立てになると地方の方が国政よりも高い p 307	政治参加をしないことの危険性をもっと訴えていかなければならないと感じ、この部分を選んだ。Q1 で記述した2つは危機感の問題の違いであると考え。政策決定は直接住民の生活に直結するが、選挙は代表者を選ぶことなので生活に影響があるとは思えないと感じている人が多いのではないかと考える。そのため、選挙などの政治参加をしない場合、どのような不利益が生まれ、どのような生活への影響があるのかを感じられるような対策を考えなければいけないと感じた。
本田	中央政府と地方政府の関係 p 300	地方と政府でどういった力の配分がされるかについて考えることができたから。私は集中型よりも分散型の法が好ましいのではないかと考えた。私たちが住んでいる地方にも多くのサービスがあることで、中央だけでなく地方の発展につながるのではないかと考えたからである。どの地域も偏りが出すぎない発展が理想的だと感じた。
松本	P.307 投票率は地方選挙の方が国政選挙より低い国がほとんどである。	地方選挙は大きい都市ほど注目を浴びてそうでない場所ではそこまで注目を浴びていない印象である。そしてメディアなどで取り上げられる国政選挙は意識していなくても日常生活の中に存在しているため、国民の関心につながりやすいのではないかと感じた。また国政選挙は国という大きな単位で考えるためより多くの国民が問題としてとらえていることを解決していく方針を掲げている人が多いのではないかと考える。このようなことから国政選挙がより注目を浴びるのではないかと考える。
三島	、少なくとも制度改革の局面においては、「大陸型」「英米型」から逸脱する組み合わせが発生することになる。(303 ページ)	この部分が面白いと感じた理由は、中央・地方関係を単純に「大陸型」や「英米型」といった二元的な枠組みで捉えることの限界を指摘している点にある。最初は、政治制度がこれらの型に分けられるものだと考えていたので、それ以外の組み合わせが現れることで、予想外の結果が生まれる可能性があるという視点に驚いた。制度改革の局面で、異なる組み合わせがどのような影響を与えるのか、その具体的な帰結を追求することが重要だと感じた。
渡邊	中央政府と地方政府の関係 (302~303)	中央政府と地方政府が政策を共管するとき、中央政府は各地に出先機関を設置するのではなく、委任を受けた地方政府が執行を行うため地方政府の活動量は大きくなりがちというのは重要な問題なのではないかと思ったためである。しかし地方政府と中央政府の役割が区別されている場合は地方政府の意思決定は自律的に行いやすく効率的にできるため、うまく分権していくことが重要であると感じた。